

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
内容報告書

団体名：公益財団法人浜松国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	浜松版地域日本語教師養成事業
事業の目的	地域国際化協会である当協会は中間支援組織として、地域の特徴や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を養成していくことが将来的に当地域の日本語教育が充実することと考え、平成27年度文化庁委託事業で検討した浜松版地域日本語教師育成講座を実施する。また、既存の地域日本語学習支援団体に所属する日本語教師や、日本語教師の資格を取得中の方々の横のつながりを築くため、情報交換、情報共有を積極的に図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	浜松市では、平成20年のリーマンショック以降、定住外国人の日本語学習支援に力を入れるために、平成22年1月に浜松市外国人学習支援センター（以下、U-ToC）を開設した。当協会は、U-ToC開設以来、市より委託を受けU-ToCの運営を行っており、日本語教師と日本語ボランティアの人材をコーディネートし、日本語教育プログラムの改善を繰り返している。 平成24年度、25年度には文化庁委託事業において、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム（以下、HAJACシステム）の開発と地域への普及を目指した試行改善を行った。平成26年度には、文化庁委託浜松市日本語教育連携推進事業を行い、地域の日本語学習支援団体と連携し、地域日本語教室におけるHAJACシステムの活用を実践、検証してきたほか、地域日本語学習支援団体と行政、さらに中間支援組織である当協会との連携、住み分けについても協議を重ねてきた。平成27年度には、前年度の連携事業で課題として明るみとなった日本語教師の数的不足と、地域の実情にあわせて日本語を指導できる人材の質的不足を解決するために、浜松版地域日本語教師育成講座のカリキュラム開発を進めてきた。 浜松市には、中長期的に在留することができる在留資格「永住者」「定住者」「日本人の配偶者」等を持つ外国人住民が全体の約8割に上り、今後日本を基盤として生活していくという覚悟が読み取れる。また日本での生活が長くなるにつれその子ども達の成長も著しく、これからは、彼らを多様な人材として認め、地域を共に創造するための仲間として互いに高めあっていく必要がある。日本に根付き、花を咲かせようとする彼らが地域の構成員として社会で活躍するために、多様なニーズにあった日本語学習の場を提供することが必要である。 また、日本語教室を開催するためには場と人材の確保が必須だが、地域で活動する日本語教師は平成26年度文化庁事業で明らかになったとおり、その数も質もまだまだ不足しており人材育成を継続して行う必要があると考える。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	平成27年度には文化庁委託事業において浜松版地域日本語教師育成検討事業を行い、地域で活動する日本語教師に必要な力を養うためのカリキュラムを開発してきた。平成28年度ではそのカリキュラムに基づいた浜松版地域日本語教師育成講座を実施し、多様な学習ニーズに対応できる地域日本語教師を養成し、輩出していく。 定住外国人の多様な学習ニーズに対応する「定住外国人のための日本語ブラッシュアップ講座」を実施する。定住が長く聴解能力と読解能力のアンバランスが著しい生活者としての外国人に対し、読み書き能力を養う講座を行う。また、来日した背景、来日後～今の生活、将来の展望をまとめた自分史を書く講座を行う。自身のライフストーリーを振り返ることにより、これからの日本での生活をより充実させる意識や日本語学習の継続意欲を涵養する。また、自分史を書く講座には、浜松版地域日本語教師育成講座の受講生がサポートに入り、学習者対話をする中でストーリーを引き出しまとめる作業について学ぶ。 自分史を書く講座で学んだ学習者、地域日本語教室で学ぶ学習者、その他関係団体で活躍する外国人住民のライフストーリーを発表するイベントを行い、地域の活力となりうる彼らの存在を知らせたり、日本で生活する上では日本語を学ぶことが重要であることを広く発信したりする機会を作る。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	石塚 良明	浜松市役所企画調整部国際課
2	小野 彬	ヒューマンアカデミー浜松駅前校
3	坂本 勝信	常葉大学経営学部
4	嶋田 和子	一般社団法人アクラス日本語教育研究所
5	白井 えり子	With U-Net
6	竹下 知宏	浜松日本語学院
7	保坂 いくみ	株式会社ソミック石川
8	今中 秀裕	公益財団法人浜松国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月23日 (月)15:30～17:00	1時間30分	浜松市多文化共生センター	石塚 良明、小野 彬、坂本 勝信、嶋田 和子、白井 えり子、竹下 知宏、保坂 いくみ、今中 秀裕、竹村吉弘、内山夕輝、鈴木由美恵	1. 事業計画(内容)について 2. 事業計画(スケジュール)について
2	平成28年10月21日 (金)15:30～17:00	1時間30分	浜松市多文化共生センター	石塚 良明、小野 彬、坂本 勝信、嶋田 和子、白井 えり子、竹下 知宏、今中 秀裕、竹村吉弘、内山夕輝、鈴木由美恵	1. 浜松版地域日本語教師養成講座中間報告 2. 日本語初中級クラス第1期報告 3. 日本語初中級クラス第2期予定 4. 写真で語る私の歴史予定

3	平成29年3月3日 (金)15:30～17:00	1時間30分	浜松市多文化共生 センター	石塚 良明、坂本 勝信、 嶋田 和子、竹下 知宏、 保坂 いくみ、今中 秀裕、竹村 吉弘、内山夕輝、鈴木由美恵	1. 浜松版地域日本語教師養成講座報告 2. 日本語初中級クラス第2期報告 3. 写真で語る私の歴史報告 4. 事業評価
---	-----------------------------	--------	------------------	--	---

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連 携 体 制	浜松市内で日本語教師養成講座を開講している民間企業と連携し、当該地域に必要な日本語教師を育成するための講座を開催する。また、持続可能な講座とするために、実施後の検証を行い改善へとつなげる。 育成した日本語教師が地域で活動できるよう、日本語学習支援団体との引き続きの円滑な連携体制を維持する。
------------------	--

(3)中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本 事 業 の 実 施 体 制	事業統括は、全ての取り組みにおいて、企画、マッチング、外部機関との渉外、調整、実施等を行う。 事業担当は、全ての取り組みにおいて、関係者との調整、講師や学習者との相談業務、助言等を行う。
--------------------------------------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞									
取組 1	取組の名称		浜松版地域日本語教師養成講座						
	取組の目標		平成27年度文化庁委託・浜松版地域日本語教師育成講座カリキュラム開発会議で策定した浜松版地域日本語教師育成講座を開講し、地域における多様な学習ニーズに対応できる日本語教師を輩出する。						
	取組の内容		平成22年度文化庁日本語教育研究委託「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」を基に開発された浜松版地域日本語教師養成講座を行う。運営においては、カリキュラム開発会議出席者による実行委員会形式での実施とする。外国人が集住する当該地域の現状、施策、日本語教育状況について学んだり、地域の多様なニーズに対応する教授法を学ぶためのフィールドワークを行ったり、学習者や教師、地域住民をつなぐ力を養うためのワークショップを行ったりと、地域で活動する日本語教師に必要な要素を知識と実践の両側面から学べる講座を行う。						
	☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動							
	取組による体制整備		外国人集住都市である浜松の地域性や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を育成することが、将来的に地域の日本語教育が充実することと考える。既存の地域日本語学習支援団体だけでなく、日本語教師養成講座を開講し人材を輩出する企業とも連携し、市内各地域で活動できる地域日本語教師を増やしていく。						
	取組による日本語能力の向上								
	参加対象者		地域で活動する日本語教師(有資格者)と一般市民				参加者数 (内 外国人数)		述べ652人 (49人)
	広報及び募集方法		HICE NEWS、HP、フェイスブック等で募集を行う。また、地域日本語学習支援団体にも参加を呼びかける						
	開催時間数		総時間42時間(空白地域 時間)						
	主な連携・協働先		浜松市、公益社団法人日本語教育学会、ヒューマンアカデミー浜松駅前校、浜松日本語学院						
	開催場所		浜松市多文化共生センター、クリエート浜松						
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ
日本(652人)									
実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名
1	9月17日(土) 13:30～15:30	1.5	浜松市多文化共生センター	33	地域理解	浜松市の外国人住民の現状、在留資格		内山夕輝 (HICE)	
2	9月17日(土) 15:40～17:10	1.5	浜松市多文化共生センター	33	地域理解	技能実習生への日本語教室の企画体験		内山夕輝 (HICE)	
3	9月24日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	36	異文化コミュニケーション①	世界の価値観		原沢伊都夫氏 (静岡大学教授)	
4	9月24日(土) 15:10～16:40	1.5	浜松市多文化共生センター	35	異文化コミュニケーション②	アサーティブ・コミュニケーション		原沢伊都夫氏 (静岡大学教授)	
5	10月1日(土) 9:30～10:45	1.5	浜松市多文化共生センター	38	世界の移民統合政策	欧州、韓国、台湾の移民統合政策		山脇啓造氏 (明治大学教授)	
6	10月1日(土) 11:00～12:30	1.5	浜松市多文化共生センター	39	日本の移民統合政策	日本の多文化共生施策 浜松市の多文化共生施策		山脇啓造氏 (明治大学教授) 石塚良明氏 (浜松市国際課)	
7	10月8日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	37	言語政策と地域日本語教育	言語政策、言語権の保障、多言語主義		河原俊昭氏 (岐阜女子大学特任教授)	
8	10月8日(土) 15:15～16:45	1.5	浜松市多文化共生センター	38	やさしい日本語から多文化共生を考える	やさしい日本語ルール、活用方法		水野義道氏 (京都工芸繊維大学教授)	
9	10月29日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	34	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ①	日本の在日外国人		藤原孝章氏 (同志社女子大学教授)	
10	10月29日(土) 15:10～16:40	1.5	浜松市多文化共生センター	33	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ①	ワークショップ(ロールプレイ)		藤原孝章氏 (同志社女子大学教授)	

11	11月5日(土) 10:30～12:00	1.5	浜松市多文化共生センター	20	発話を引き出す質問力を養う	教師の質問力、コメント力について	嶋田和子氏 ((一社)アカス日本語教育研究所代表)	
12	11月5日(土) 13:00～14:30	1.5	浜松市多文化共生センター	19	対話をする力・響き合う力を養う	対話と会話の違いについて 生活の中から教室活動のタネを見つける	嶋田和子氏 ((一社)アカス日本語教育研究所代表)	
13	11月5日(土) 14:45～16:15	1.5	浜松市多文化共生センター	19	グループワーク	導入・多様な現場を知る	嶋田和子氏 ((一社)アカス日本語教育研究所代表)	
14	11月12日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	15	プロジェクトワーク	導入・学習者と協働で自分史作成を行う	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	
15	11月12日(土) 15:15～16:45	1.5	浜松市多文化共生センター	15	プロジェクトワーク	計画・学習者と協働で実習計画を立てる	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	
16	12月3日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	18	自己教育力	教師の3つの力、学習者と向き合う	田尻悟郎氏 (関西大学教授)	
17	12月3日(土) 15:15～16:45	1.5	浜松市多文化共生センター	18	自己教育力	英語指導の実践から日本語教育のヒントを得る	田尻悟郎氏 (関西大学教授)	
18	12月10日(土) 10:30～12:00	1.5	浜松市多文化共生センター	14	HAJACとは何か	HAJACの成り立ち、概要	鈴木由美恵 (HICE)	
19	12月10日(土) 13:00～14:30	1.5	浜松市多文化共生センター	16	HAJACを体験する (模擬インタビュー)	模擬インタビュー	石川智子氏(With U-Net) 針山摂子氏(With U-Net) 山添有香子氏(With U-Net) 鈴木由美恵 (HICE)	細川時夫、増井善美、Fernanda Rita da Silva Suzuki、マルシエル鈴木
20	12月10日(土) 14:45～16:15	1.5	浜松市多文化共生センター	16	HAJACの活用方法	HAJACを授業でどう活かすか(実践例より)	針山摂子氏(With U-Net)	
21	1月8日(日) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	15	プロジェクトワーク 中間報告	中間報告	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	中里ユキエ、テンラットチャンタナ、五藤幸来、孫玉傑、岡部デリア
22	1月8日(日) 15:00～16:30	1.5	浜松市多文化共生センター	15	プロジェクトワーク 中間報告	中間報告	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	
23	1月28日(土) 13:30～15:00	1.5	浜松市多文化共生センター	15	グループワーク 報告	報告	松本三知代氏 (JICE講師)	
24	1月28日(土) 15:15～16:45	1.5	浜松市多文化共生センター	15	グループワーク 課題解決検討	課題解決検討	松本三知代氏 (JICE講師)	
25	2月4日(土) 13:30～15:00	1.5	クリエート浜松	25	プロジェクトワーク 最終報告	最終報告	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	中里ユキエ、テンラットチャンタナ、孫玉傑、Akiko Aira Fujisaki Vibar、岡部デリア、松嶋フタガリユリアナ
26	2月4日(土) 15:15～16:45	1.5	クリエート浜松	16	グループワーク 振り返りとまとめ	まとめと振り返り	嶋田和子氏 ((一社)アカス日本語教育研究所代表)	
27	2月12日(日) 10:00～11:30	1.5	クリエート浜松	14	写真で語る私の歴史 鑑賞	写真で語る私の歴史 鑑賞と振り返り	坂本勝信氏 (常葉大学准教授)	
28	2月18日(土) 18:30～20:00	1.5	クリエート浜松	14	全体のまとめと振り返り	まとめと振り返り	嶋田和子氏 ((一社)アカス日本語教育研究所代表)	

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第9.10回 平成29年10月29日(土)13:30～15:00、15:10～16:40】ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ①②

講師の著書である「ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ」を用い、日本の現状理解を深めた後ワークショップを行った。前半では、日本の移民の歴史や統計資料からみる在日外国人の実態を学んだ。また、オールドカマーとニューカマーなど、日本に住む外国人の多様な背景からくる社会的課題についても学んだ。後半は、ワークショップで外国人の定住をめぐる4つの立場と議論の構造を学び、多文化共生のジレンマを実感する機会となった。受講者からは、・戦前～戦後の時系列で移民等の歴史の確認ができた。・ひょうたん島問題のロールプレイはとても現実的で、興味深かった。・役割になりきって討論することで、自分の知らなかった問題点に気づくことができた。・ロールプレイにより現在の問題を実感できて大変面白く、楽しみつづ、そして困り、忘れられない授業になった。・ひょうたん島の内容設定が日本社会をふまえていてとても興味深かった。・シミュレーションのディスカッションは「自分と異なる意見を主張する」ことが新鮮で、人の立場になって考えることが大切であると再確認した。・浜松の現状と似かよっていると思った。などが寄せられた。



○取組事例②

【第25回 平成29年2月4日(土) 13:30～15:00】

プロジェクトワーク「写真で語る私の歴史」最終報告

受講した日本語教師と外国人学習者が1対1で向き合い、母国での生活や来日の経緯、日本での苦労、将来の夢について、写真とともに自分史をまとめる作業を協働で行ってきたことの成果発表を行った。「まとめる」作業の中には「学習者と向き合う」「学習者のヒストリーを引き出す」「対話をしながらストーリーを練る」「写真を探す」「写真のタイトルをつける」「写真に合わせて文章構成をする」「8分間の内容に削る(もしくは増やす)」「スピーチの練習をする」という工程があり、どのペアも11月12日(土)から時間と手間をかけて行ってきた。1月8日の中間発表ではまだ途中のペアも多かったが、聴衆からコメントシートをもらいそれらを踏まえて修正した調整力は素晴らしかった。これらの協働作業を通じて築いた信頼関係は、今後、地域で日本語教師として活動する上で、貴重な財産になるだろう。



(2) 目標の達成状況・成果

【多文化共生理解のための公開講座】

日本語教師の他に一般受講者が26人参加し、多くの方が多文化共生について理解を深める機会となった。会社員、小学校教員、大学生等様々な受講者が、グループワークやペアワークを通じて話し合いをすることにより、それぞれの立場で意見交換ができたのが良かった。また、各分野の専門家から直接話を聞く貴重な機会となったことで、離脱者が出ることもなく、毎回多くの受講者が熱心に参加した。

受講者には回毎に振り返りをしてもらっているが、日本はすでに多文化な人たちが成り立っていることや、日本における外国人住民の増加が国内の労働力不足と結びついていること、浜松市が外国人支援の先駆的な取組をしていることなどを初めて知ったという人も多く、日常の中で自分と直接関わりがないことには、関心を持ちにくいということがあらためて露呈した。

一方で、受講者の中に海外在住経験者が15人くらいいることもわかり、この方々の存在が多文化共生を進める上でのリソースになりえると感じた。

今回の受講者には、ヒューマンアカデミーの日本語教師養成講座を受講している方々の参加も多く、連携の成果が現れたと思う。

【実践講座】

グループワーク

市内の6団体・機関(ジャボラNPO様、にほんごNPO様、NPOフィリピンナガイサ様、静岡県ベトナム人協会様、ムンド・デ・アレグリア学校様、U-ToC)に、受講者4組(各3人)が、3箇所見学に出向いた。

グループワークの目的は主として二つあり、地域の日本語教室の多様さ(目的・対象・内容・工夫・運営方法等)を実感し今後の活動に活かすということと、グループ内で横のつながりを作ることだった。一つ目の目的である、多様さを知ることについては理解してもらえたと思うが、その違いがなぜあるのか、現在の運営方法にいたるまでにはどのような苦労と工夫があったのか、そこに考えがいたるところまで掘り下げるフォローが必要だった。

二つ目の目的については、普段フリーで活動したり所属が違ったりする受講者らが、本ワークで共に活動することによって励ましあったり情報交換したりする機会となった。

運営側としては、日本語教師の中には(対学習者との関係性は素晴らしく良好なのに)、横や斜めの関係が苦手な方も少なからずいることがわかったことが収穫の一つであり、学習者ファーストで教室運営していく上での日本語教師の資質・能力を見極めるポイントとなった。

また、見学を依頼した団体・機関と情報交換をする機会になり、最新の活動状況を知ることができてよかった。

プロジェクトワーク

「日本で生活している外国人の人生に耳を傾け、語られた自分史を写真を用いながら8分間にまとめて発表する」までを、外国人と一対一の協働で行う本ワークには、受講者12人のうち、10人が取り組んだ。事務局側の説明不足があり、ワークを行うことへの不信感を招いてしまったのは大いなる反省点であるが、ワーク自体は、目の前の外国人と一対一で向き合い対話を深めることで、日本で生活する彼らの背景を理解し多文化共生の必要性を実感する良い機会になったと思う。

また、発表者からは、自分自身の日本語について見直す機会になったのと、自身の経験を振り返りそれを話すことで自信につながったという感想が寄せられた。

HAJAC

平成24.25年度文化庁委託事業で開発した浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム(HAJACシステム)を体験するプログラムを組みこんだ。受講者からはインタビュースキルの向上を望む声が多かった。答えられる答えられないを判定するための質問ではなく、判定の根拠となる証拠を引き出す質問を考えることの大切さや難しさに気づいてもらえたと思う。テスト養成講座を希望する声もあり良かった。

【全体を通して】

多文化共生に資する日本語教育とはいったい何なのか、再考するよい機会となった。グループワークの振り返りの中で、教室の位置付けが議論になった。居場所なのか、学習の場なのか、教室に求める目的の違いが受講者の中ではっきりと現れた。それは実は学習者にも同様であり、「日本語教室」という場に求めるものが人によって違う。楽しいだけのおしゃべりでは学習をしたい人の足はいつの間にか遠のくし、逆に、同胞の人たちが集まって週に一回楽しみで集まる教室もある。本来は、居場所や学習の二項対立ではなく、どのようにバランスを取るのか、教室に集まる学習者の学習ニーズを探ったり、団体の母体や理念に沿ったりしながら状況に応じて場を創り上げているものだと思う。そういった団体の特徴を共有し、全体で日本語教育を考えていく必要があると改めて学ぶことができた。また、国際交流協会は中間支援組織として機関や個人をつなげることや、そのような場を作ることが重要な役割であることもあらためて学ぶことができた。

(3) 今後の改善点について

【多文化共生理解のための公開講座】

受講者の振り返りの中にもあったが、今回の学びを広げていくためにはどうすればよいかということを考えていく必要がある。海外在住経験者が多いのは浜松市の特徴ではないかと静岡県立大学の先生に言われたことがあるが、この掘り起こしはできないか。企業とのさらなる連携、人材の活用について検討していきたい。また、今回の受講者と継続的なつながりを持つための工夫も検討したい。

【実践講座】

人材育成の難しさにあらためて直面した。今回の養成講座は教師のスキルアップだけでなく、多文化共生意識の涵養がねらいだったが、受講者のニーズは前者にあることがわかった。このニーズにこたえつつ本来のねらいが伝わる内容へと改善する必要がある。

・カリキュラム(実践ワークの内容、講座順等の改善検討を行う)

・受講料(「HICE」が「文化庁事業」で30,000円も集めるとは驚いた。という声があった。実行委員会では、自立運営や民間講座との比較から有料は妥当だという結論になったが、金額を見直す必要があるか)

・開催スケジュール(写真で語る私の歴史とプロジェクトワークを連動させないスケジュールへと見直す)

・運営(ヒューマンアカデミーさんから教えていただいたノウハウ(ちらしの作り方、受講者への案内の仕方)を活かした方法を検討する)

＜取組2＞										
取組2	取組の名称		日本語教室（初中級）							
	取組の目標		日本人配偶者として来日し、生活の中で日本語を自然習得したり独学で初級程度を終えたりしている生活者としての外国人が、出産子育てを経て日本語のさらなる必要性を感じ、U-ToCへ学習しに戻って来ている。日本の生活には慣れてきたが、周囲に友達もいないため生活の場は限られており、地域とのつながりもほとんどない。そこで、初級を終えた初中級レベルの日本語教室を行い、彼らが社会参加に一歩踏み出すための一押しをする。							
	取組の内容		定住外国人の多様な学習ニーズに対応する「日本語教室（初中級）」を実施する。 前期は、日本語支援を必要とせず自発的に地域社会に働きかけることができ、地域の人々とコミュニケーションを取りながら自分の場所を見つけることができるよう、対話力を磨く内容とする。講座終了時には、多文化交流を行う多文化体験講座の企画運営を学習者自らがいき、成果発表を通じて地域に日本語教育の重要性を発信する。 後期は、ペアあるいは、グループになって、自分の興味のあることをアンケートやインタビューによって調査し、その結果を分析し、考察を加え報告するプロジェクトワークを行う。講座終了時には、プロジェクトワークの成果発表を行い、前期同様、日本語教育の重要性を発信する機会とする。							
		空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	□ 取組による体制整備		教室開催にあたり、企業や行政、地域団体、日本語学習支援団体と円滑な連携を進め、日本語教育の重要性について理解を促進する。 また、開催は浜松市の施設である外国人学習支援センターで行い、教室運営費用には浜松市より財政支援が入る予定である。本教室を、市内の日本語教育のモデルケースとするために大学准教授へ講師を依頼し、その謝金と旅費を文化庁事業により補うといった資金連携を行いながら、地域全体の日本語教育の内容の充実を目指す。							
	取組による日本語能力の向上		初級を終えた程度の生活者が、日本での生活の場をさらに広げるために必要な日本語の習得を目指す。日本語を使って自分の意見を述べたり、その理由について筋道を立てて説明したりすることができることを目指す。							
	参加対象者		定住外国人				参加者数 (内 外国人数)		人 (人)	
	広報及び募集方法		HICE NEWS、HP、フェイスブック等を活用するほか、外国人を採用する企業や行政にも広報協力を依頼する。ブラジルフリーペーパーの記事の掲載							
	開催時間数		総時間90時間（空白地域 時間）							
	主な連携・協働先		浜松市、外国人学習支援センター、With U-Net、常葉大学、(株)ソミック石川、(有)伸栄総合サービス、NPOころころねっと							
	開催場所		浜松市外国人学習支援センター							
	参加者の出身・国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
			1期-6人、2期4人 香港(1期-1人、2期-1人)、	2期-1人		1期-2人	1期-1人、2期-1人	2期-2人	1期-1人、2期-3人	1期-1人、2期-1人
		イギリス(1期-1人)、トルコ(2期-1人)、インド(2期-3人)、ペルー(2期-2人)、								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容		指導者名	補助者名	
1	平成28年5月9日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	11	・新しい一歩+(地域社会の中で) ・プロジェクトワーク準備	初めて会った人に丁寧に自己紹介したり、印象よく問い合わせたりすることができる。 地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話すことができる。		戸田幸子		
2	平成28年5月16日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	10	・新しい一歩+(地域社会の中で) ・プロジェクトワーク準備	初めて会った人に丁寧に自己紹介したり、印象よく問い合わせたりすることができる。 地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話すことができる。		戸田幸子		
3	平成28年5月23日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	10	・新しい一歩+(地域社会の中で) ・プロジェクトワーク準備	初めて会った人に丁寧に自己紹介したり、印象よく問い合わせたりすることができる。 地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話すことができる。		戸田幸子		
4	平成28年5月30日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・私の目標 ・プロジェクトワーク準備	自分の目標や計画を話したり、進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。		戸田幸子		
5	平成28年6月6日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	10	・私の目標 ・プロジェクトワーク準備	自分の目標や計画を話したり、進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。		戸田幸子		
6	平成28年6月13日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	8	・私の目標 ・プロジェクトワーク準備	自分の目標や計画を話したり、進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。		戸田幸子		
7	平成28年6月20日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・住んでいる町で ・プロジェクトワーク準備	日本の生活を楽しむために住んでいる町の情報を教え合って、その情報をもとに行動することができる		戸田幸子		
8	平成28年6月27日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・大変な1日 ・プロジェクトワーク準備	突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して対処することができる		戸田幸子		
9	平成28年7月4日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・大変な1日 ・プロジェクトワーク準備	突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して対処することができる		戸田幸子		
10	平成28年7月11日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・大変な1日 ・プロジェクトワーク準備	突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して対処することができる		戸田幸子		

11	平成28年7月25日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	4	・旅行に行こう ・プロジェクトワーク準備	旅行に行くために事前に情報を収集したり相談したりして、旅行に行く前の準備ができる	戸田幸子	
12	平成28年8月1日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	5	・西川さんの家へ ・プロジェクトワーク準備	日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら、その家の人との交流を楽しむことができる	戸田幸子	
13	平成28年8月29日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	5	・西川さんの家へ ・プロジェクトワーク準備	日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら、その家の人との交流を楽しむことができる	石川智子	
14	平成28年9月5日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	・西川さんの家へ ・プロジェクトワーク準備	日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら、その家の人との交流を楽しむことができる	戸田幸子	
15	平成28年9月12日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	6	多文化体験講座(プロジェクトワーク発表会)	ほんと！？日本との違い ～日本と外国の文化や習慣をみんなに教えます～	戸田幸子	

1	平成28年10月24日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	14	導入)プロジェクトワークとは？	・サンプル映像確認を見て、プロジェクトワークの内容確認 ・自分たちが日本の生活で興味のあること、疑問に思うことをグループで話し合って発表する	戸田幸子	小池啓子
2	平成28年10月31日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	17	テーマを決める／活動グループを決める	・自分の興味のあるテーマを決め、グループ決め ・グループでマッピング作業 ・どんなことを話し合ったか、発表する	戸田幸子	小池啓子
3	平成28年11月7日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	13	アンケート作成	・質問を考える ・答え方(選択肢など)を考える	戸田幸子	小池啓子
4	平成28年11月14日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	14	アンケート作成(2)・・・完成へ	・質問を考える ・答え方(選択肢など)を考える ・アンケートフォームを作る	戸田幸子	小池啓子
5	平成28年11月21日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	9	模擬インタビュー	・インタビューの依頼 ・インタビューの仕方 ・音声録音	戸田幸子	小池啓子
6	平成28年11月28日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	12	調査結果のまとめ方(1) アンケートの依頼	できる日本語初中級 第15課 ST2 みんなの前で発表より ～ていく／～てきた ～ために ～を占める／～しかない	戸田幸子	小池啓子
7	平成28年12月5日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	10	調査結果のまとめ方(2)	調査結果のまとめに必要な表現 ～と答えた人は○人です。～が一番多い／次に多いのは、～には▲が多い。中でも～ ・例えば、～などです ～かどうかを聞いたところ、etc	戸田幸子	小池啓子
8	平成28年12月12日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	12	アンケート回収・集計	自分のアンケートを読み、表やグラフにまとめる作業。全員がアンケートの答えをしっかりと読み、集中して集計作業に取り組むことができた。	戸田幸子	小池啓子
9	平成29年1月16日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	3	レポート作成(1)	プロジェクトワークレポート作成。①データ集計→②表・グラフ化→③説明文→④考察 を各自進める。アンケート集計例を見ながら、説明文を加えていたり、考察部分を深めたりする。	戸田幸子	小池啓子
10	平成29年1月23日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	6	レポート作成(2)	プロジェクトワークはレポート作成の仕上げ。レポートが終わった人は、考察→中間発表原稿へと進んだ。全員にアンケートで分かったこと、自分の国との違い、自分の意見を言ってもらってから、作文をしてもらった。	戸田幸子	小池啓子
11	平成29年1月30日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	3	発表用原稿作成	先週書いた中間発表・アンケート結果報告作文を全員の前で読み、質問に答えた。質問をする側もされる側も真剣に受け答えができ、小さいディスカッションへとつながった。発表用原稿はほぼ完成。	戸田幸子	小池啓子
12	平成29年2月6日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	3	発表用ポスター作成	ポスター作成へ。レイアウトを自分で決め、内容も自分で考えてもらった。	戸田幸子	小池啓子
13	平成29年2月13日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	5	発表用資料すべて完成 リハーサル	作業の進捗状況は全員バラバラなので、それぞれに作業を進めてもらった。最後に本番と同じようにプロジェクトターを用意して、前に立って現行の一部を読んでもリハーサルした。	戸田幸子	小池啓子
14	平成29年2月20日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	5	プロジェクトワーク発表会 「気になるあのことについて調べました！」	発表会には約30名が来場した。その後の質疑応答も一生懸命答えていた。学習者にとっては日本人と1対1で話す非常に実践的な日本語学習の場になった。会場設営・会場もみんなで行った。	戸田幸子	小池啓子
15	平成29年2月27日 (月) 9:30～12:30	3	浜松市外国人学習支援センター	7	プロジェクトワーク振り返り レポート集 完成	前回の発表会のビデオを一人ずつ見ながら、発表のよかったところや意見を出し合った。プロジェクトワークの感想文を書いた後、PWで制作した作文、レポート、考察などを全員分コピーし、1冊のレポート集にまとめた。	戸田幸子	小池啓子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【1期・第15回 平成28年9月12日】

プロジェクトワーク発表会当日。朝、いすを並べ会場設営後、演壇でリハーサル。声の高さ、スピード、発音、画像などを再確認。発表は5名(P・SH・Y・R・S)、SYが受付担当。10:20開場。観客41名。一人約10～15分の発表で、時間通り終了。それぞれが自分の意見や考えを発表することができた。終了後、会場の机いすを元通りに直してから、振り返り。できたこと、できなかったこと、仲間のよかったところを共有。互いによかったことも、修正点も指摘しあうことができた。最後にアンケートと、U-ToCを卒業する学習者の外国人サポーター任命書授与式を行った。達成感と爽快感にあふれた最終回となった。学習者は緊張した様子だったが、観客を前に堂々と発表することができた。時折観客からどよめきや笑いなどの反応があり、それでリラックスできたと思う。夏休み中に自分ひとりで原稿を書くことになり、大変だったと思うが、実際に見事なラストスパートを見せてくれた。特にずっと帰国していたYは、最後の1週間でもやり取りして発表にこぎつけた。全員が最後はやり遂げた達成感、爽快感に満ちていた。(もちろん反省も。)今回をもってU-ToCを卒業する学習者から、授業終了後、「ダンスなら教えられる」「料理教室は二人でやってもいいのか?」など、前向きな意見が聞けたこともうれしかった。



○取組事例②

【2期・第15回 平成29年2月27日】

前回の発表会のビデオを一人ずつ見ながら、発表のよかったところを挙げ、さらにそのテーマについてみんなで意見を出し合った。自分の国と比較して様々な意見を出し、それぞれのテーマを深めることができた。プロジェクトワークの感想文を書いた後、制作した作文、レポート、考察などを全員分コピーし、1冊のレポート集にまとめた。最後までタイムコントロールが不調で、できずに終わったことも多かったが、それでも楽しく15回の授業を終えることができた。学習者は、先週の緊張した面持ちとは違い今日はリラックスした表情。久しぶりにPも戻ってきて、7名で授業を行った。先週のことを聞くと「緊張で原稿だけを見てしまい、お客さんに視線を向けられなかった」とFとM。ビデオを見ながらのディスカッションでは、テーマについて自分の意見や物事の説明などを長く、細かく話すことができるようになり成長を感じた。先週発表ができなかったSHとPはとても残念そうだったが、一部だけでも文集に参加できてよかった。PAIはMPIに選ばれてうれしそうだった。3月末に国に帰っても日本語を勉強すると言ってくれた。



(2) 目標の達成状況・成果

【第1期】プロジェクトワークでは、テーマ決めやちらし作成、原稿作りや発表会の進行など、学習者自身で行った。昨年度から受講している学習者も多くいたが、自分達で企画して進めることは初めてで、自発的な活動ができたことに満足感を得たようだ。クラス終了後は、HAJACテストを行い、C6と判定された人はU-ToCを卒業した。U-ToC外国人サポーターとして子育て広場(こころろルーム)で先輩ママとして通訳したり、日本語ボランティア養成講座での登壇、FACEBOOKの情報発信をしていく。また、外国人サポーターの中にはU-ToC初級①クラスで教室補助者として会話練習や宿題のチェックもしていて、支援される側から支援していく側へシフトしている。U-ToC学習者のロールモデルとしてだけでなく、今後、地域での活躍の場が増えることを期待している。

【第2期】地域にある大学の准教授(日本語教育専門家)より、プロジェクトワークのノウハウを学びながら、講師陣とカリキュラムの開発を進めた。第2期は、初級②の修了者が多かったことから、第1期初中級クラスよりHAJACレベルを1つ下で設定したことや、また今までのクラスに比べ、アウトプット(特に書く作業)が増えていることで、学習者の負担について心配の声もあったが、成果物の作成及び発表を無事終えることができた。成果物はレポートとポスターで、ワーク途中でのアンケート作りやまとめ、発表原稿の作成も行った。この「できた」という体験が学習者の達成感になり、アンケートでも満足の高い結果に繋がったと思う。また、このクラスは自ら進めていく力が鍵となるが、クラス後半になると、学習者の自主性が徐々に見え始めたのは非常に喜ばしかった。クラスの終わりごろになると一人一人が自分の思い・意見を自ら伝えるようになっており、自主性が磨かれ、話す姿勢に現れたのではないと思う。

このプロジェクトワークを始める前には、学習者に自律学習を強制できないこと、学習者が必ずしも毎回授業に参加するわけではないこと、学習者にパソコンを扱える人がほとんどいないことなどマイナス想定していたが、授業でやらなかったことを家でカバーしたり、アンケート結果をパソコンでまとめたりする学習者もあり、学習者の潜在能力をみることもできた。

発表会では、日本人側が外国人はどんな視点で日本を見ていたのか理解できたのも良かったが、日頃日本人や日本文化に対して疑問を持っていた外国人が、自分の気になる点について理解できたことが一番の成果だと思う。異文化理解には相互理解が必要であり、外国人側も新しい視点で日本を捉えられて良かった。また、日本語初級者は、人の前で意見を伝える場は限られている。そのため、自分達の考えを伝える場が作れたことは大きな自信に繋がっているのではないかと感じた。

(3) 今後の改善点について

【第1期】昨年度から受講している学習者が多かったため、新規加入者にとってレベルが高く難しいクラスと感じさせてしまった。U-ToC内での体制を少し変え、問題解消を図った。また、プロジェクトワークを行う目的(主体的に日本語活動を行うこと)やワークを行うことによる日本語力向上の効果がうまく伝わらず、最後の発表会に参加しない学習者もいた。地域の中に溶け込むには、自発的な働きかけが求められる場合も多いので、第2期の初中級では活動の意義付けをしっかりとしていきたい。

【第2期】このクラスに限ってのことではないが、年が明けると一時帰国や体調不良も多く、出席者数は芳しくない。開講時期や期間について見直しをするが、毎年の課題である故、改善は難しいように感じる。また、1回の開講時間も長いので、1回でもお休みをすると追いつくのが難しいと感じた学習者もいたかもしれない。進め方やフォロー体制の見直しをしたい。

また、今回のアンケート調査では、紙ベースのものが多かった。インタビューできる場をU-ToC文化祭としていたが、こちらの思惑通りには進まなかった。日本人にインタビューできる機会を設けられればと考えており、どの場にするのか検討が必要である。

<取組3>

取組3

取組の名称

グローバル人材発信イベント「写真で語る私の歴史～これまでの私とこれからの私～」

取組の目標

すでに地域に根付いている定住外国人が、地域の活力となりうるグローバル人材として社会に広く認知されるよう、写真を使い日本語で自分史について語るイベントを行う。これまでの定住の歴史や苦労、どのように日本語を習得してきたか、困ったときにどのように克服してきたかを体験の中から語るにより、多文化共生のための日本語教育の必要性について、市民へ広く呼びかけるきっかけとする。

取組の内容

浜松市は外国人が多く集住する都市であり、職場や学校、地域において、日本人、外国人間の接触場面は少なくないのだが、相互理解がさほど進んでいないことが課題の一つである。ホスト社会側がより一層外国人住民への理解を深めるために、フォト・ストーリーテリングの手法を使って定住外国人のライフストーリーを紹介するイベントを行う。作品を作る際には、取組1の受講生と取組2の学習者等がペアとなり、対話をしながら協働で作業を行う。イベントに参加するための準備を通じて相互の関心理解を深めていく。

空白地域を含む場合、空白地域での活動

取組による体制整備

取組2の学習者のみならず、地域日本語学習支援団体や外国人を採用する企業等に協力を呼びかけ、イベントで発表を行う外国人学習者を推薦してもらうことにより、本イベントを関係機関と協働で行う契機とする。また、当協会が行う国際理解を学び国際交流を楽しむグローバルフェアのメインイベントとして開催し、市内小中学校、高等学校、公共施設等全域へ広報を行い、連携を深める。

取組による日本語能力の向上

自身のライフストーリーを語るにあたり、ストーリーを作文にするための文章整理や表現力を養うほか、人に伝える伝え方も学ぶ機会とする。また、これからの日本での生活をより充実させる意識や日本語学習の継続意欲を涵養する。

参加対象者

地域住民、企業担当者、地域日本語学習支援団体関係者等

参加者数
(内 外国人数)

150人
(人)

広報及び募集方法

HICE NEWS、広報はままつ、HP、フェイスブック等を活用し広報を行う。ブラジルのフリーペーパーへ記事の掲載。

開催時間数

総時間1.5時間(空白地域 時間)

主な連携・協働先

浜松市、浜松市教育委員会、はままつ国際理解教育ネット、JICA中部、(公財)浜松市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松市局、K-mix、FM Haro!

開催場所

クリエート浜松

参加者の出身・国別内訳
(人数)

中国

ベトナム

ネパール

韓国

フィリピン

インドネシア

タイ

ブラジル

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年2月12日(土) 10:00～11:40	1.5	クリエート浜松	—	外国人住民が写真を使って自分史を語る	外国人住民6人(ブラジル2、ペルー1、タイ1、中国1、フィリピン1)が1人8分間のフォトストーリーテリングを行う。司会は日本語教室学習者のブラジル人男性。発表内容のパネル展示を行う。	—	—
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【平成29年2月12日】

ブラジル(8歳の時に家族でブラジルへ渡った日系1世)、ブラジル(日系3世。ブラジルでブラジル人と国際結婚しその後出稼ぎで来日)、ペルー(日系2世。第二次世界大戦中に祖父がアメリカの収容所に入れられていた)、タイ(日本人と国際結婚。日本語を猛勉強し、定時制高校で子育てと学業の両立中。中国(技能実習生として来日後、日本人と結婚。文化の違いに戸惑いながら現在は高校で支援員に)、フィリピン(フィリピンと日本を行き来しながらフィリピンで中学校を卒業。今春から定時制高校新1年生に)の6人の定住外国人が、写真を用いながら自分史について発表した。なぜ来日したのか、日本の生活で何に苦労したのか、どう克服したのかを時系列に日本語で語ることで、日本社会が多文化共生の必要性を実感する機会とした。昨年度のアンケート結果を踏まえて、発表後に発表者に壇上に上がっていただき、一言ずつ感想を述べてもらった。生の発言が聞かれてより印象深くなった。



○取組事例②

【平成29年2月12日】

ホールでの発表後は、ロビーで交流会を行った。ロビーには、発表資料をパネルに掲示し、グローバルフェアのイベントの間中、展示を行った。交流会では、もっと聞きたいことや、感想等を発表者に直接伝えることができるため、交流の機会となった。また、発表者の家族や友達が大量集まり、皆より祝福や感嘆を受け、発表者にとっては大きな自信になったと思う。



(2) 目標の達成状況・成果

・今年度で3回目のイベントとなった。日本人の配偶者、定時制高校生、日系人、日本人移民1世、若者など様々な背景を持つ外国人が発表を行った。発表者の家族や応援団が聴きにきてくれたほか、袋井、掛川等の近隣国際交流協会関係者や神奈川、東京等の県外から聴きにきてくれた方もいた。広報活動として、仕事で付き合いのあった方宛てに案内を送ったり、小中高の教員に案内を送ったりしたところ、案内を見て来てくれた方も多く、顔の見える関係作りの大切さを実感した。

司会にはU-ToCの男性学習者に依頼した。「自分は日本語を話せると思っていたが、フォーマルな話し方や敬語を知らなかった。練習が楽しかった」という感想をもらうことができた。また、発表者からも「日本語の勉強になった(発音や語彙など)」「第二次世界大戦中の祖父の経験を皆に知ってもらってよかった」「ここまでできるとは思わなかった。自信がついた」等の感謝の声が寄せられた。

聴衆者からも「今後も続けてほしい」「写真があるのでわかりやすい」「発表者の歴史を通じて、それぞれの国の文化を知る機会を得た」「異文化の中で生きていくことの大変さ、難しさが体験を通じてよく伝わってきた」「去年にはなかった発表後にステージ上で発表者へのQ&Aがとてよかった」等の感想が寄せられた。同じ地域に住む外国人住民の背景を知り、身近な存在へと意識化する目的は達成できたと思う。

今年度は、例年より発表者が一人少なかったため、発表後に壇上で感想を一言ずつ述べてもらったが、評判が良かったので今後も取り入れてもよいだろう。

パネル展示も、今年度からスライドに合わせた文章も掲示したところ好評だったので今後も継続したい。

イベントをDVDにし、多文化共生理解教育の教材として、市教委の研修受講教員へ配布する予定である。

(3) 今後の改善点について

・浜松版地域日本語教師養成講座との連動の仕方を見直す必要がある。講座でのゴールをイベントでの発表にしまうと、どうしても選考という手段をとらなければならず悔恨が残ってしまう。今後は講座とは切り離すが、その先のイベントへのチャレンジもできるという連動の仕方を検討する。

講座の実行委員より、「自分の関心のある人のストーリー(自伝)は聴きたいと思うが、全然知らない人の自伝を聴きたいと思うことは少ないのではないか。聴衆に多文化共生についてのどんな行動を促したいのか。」という質問があがった。イベントの目的を、多文化共生理解のために現状を知らせるということにしているため、確かに広く浅い展開になっている。長く続けるためにはこの方向性についても検討していく必要がある。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・地域国際化協会である当協会は中間支援組織として、地域の特徴や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を養成していくことが将来的に当該地域の日本語教育が充実することと考え、平成27年度文化庁委託事業で検討した浜松版地域日本語教師養成講座を実施する。また、既存の地域日本語学習支援団体に所属する日本語教師や、日本語教師の資格を取得中の方々の横のつながりを築くため、情報交換、情報共有を積極的に図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・浜松版地域日本語教師養成講座では、昨年度の文化庁委託事業で開発したカリキュラムを実行することができた。その際、カリキュラム開発に関わってくださった方々と実行委員会形式で講座の運営を行うことができた。実行委員会を講座前2回、中間と講座期間中に行ったことで、進捗状況を共有しながら客観的な視点でその都度確認や修正をすることができた。また、講座後の実行委員会では、振り返りと次回の改善案をまとめることができ、継続的な地域日本語教師養成事業に向けての足がかりとなった。

・日本語教室(初中級)では、地域にある大学の准教授(日本語教育専門家)に指導助言を仰ぎながら開催することができ、非常に意義があった。今後、自治体が行う日本語教育において、地域住民への言語保障という観点から「どこまで」日本語教育を行うかという上限について検討する必要があるという課題に気づくことができたのが特に大きい。

・写真で語る私の歴史は今回で3回目のイベントになるが、過去2回で寄せられたアンケートや運営委員会での意見をふまえて改善ができた。マンネリ化を心配する声もあるが、運営委員より、多文化共生に関心のない層に対して入りやすい入口であり継続することに意味があるとのコメントをいただいたので、来場者アンケートを参考にしながら少しずつ改善を加え継続していきたい。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・日本語教師の量と質の不足の解消には、個々の団体だけで解決することは非常に難しい。日本語教師を養成する機関との円滑な連携、ならびにそれを地域の支援団体につなげるコーディネーター役が必要である。今回の養成事業を通じて、民間の日本語教師養成機関とWinWinの関係でつながることができた。日本語教師養成機関にとっては、受講生の出口支援が必要である。その出口の一つとして地域での日本語教室活動を紹介することで、地域にとっては日本語教師の確保につながる可能性がある。双方にメリットがあることにより継続的な連携が無理なくできることは非常に有意義である。今回はそのつながりの足がかりとなることができ、中間支援組織として大きな役割が果たせたと感じている。

(4) 事業実施に当たった周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・浜松版地域日本語教師養成講座の広報では運営委員より民間における募集のノウハウを教えていただくことができた。効果的なチラシのレイアウトや心を掴むフレーズなど、学ぶことが多かった。また、ヒューマンアカデミーさんの日本語教師養成講座と連携し、チラシの配布や声掛けのご協力をいただけたのもありがたかった。

・日本語教室(初中級)では成果発表会の案内を浜松市の広報誌に掲載し、広く一般市民に呼びかけたところ多くの参加者があった。また、レベルの違う学習者にも参加を呼びかけたところ聞きに来てくれた学習者も多く、先輩の日本語力を知ることで学習の動機付けにつながった。

・写真で語る私の歴史では、市内の小中学校や県西部の高等学校へチラシを配布し、教育関係者へ呼びかけることができた。また、協会が年に1度行うイベント(グローバルフェア)内で開催することにより、お祭りに参加するために来場した一般市民が外国人のライフストーリーを気軽に聞く機会となった。

(6) 改善点、今後の課題について

平成26年度文化庁委託「浜松市日本語教育連携推進事業」で、地域で活動する日本語教師の量と質の不足が浮き彫りになり、平成27年度文化庁委託「浜松版地域日本語教師養成検討事業」でその課題を解決するための検討を行った。今年度は、昨年度の検討事業でカリキュラム開発した「浜松版地域日本語教師養成講座」を実施し、地域で活動する日本語教師を増やそうと試みたが、一朝一夕に解決することではないということが改めて浮き彫りになった。日本において日本語を学習する場合は、大学、日本語学校、地域、企業など様々あるが、日本語教師が日本語教師として安定して働ける環境は地域にはほとんどない。そのため、日本語教師としての資質が高く、かつ、地域で日本語教育を行う人材を確保するのは非常に難しいのが現実である。加えて、地域で日本語を学ぶ学習者のほとんどが、日本語能力を求められずに日本に定住できる在留資格を持っているため、日本語を学習する必要性を感じるかどうかは個人に委ねられている。それらの状況下で地域の日本語教育の充実を地域だけで図るには限界があり、より一層、国との連携が欠かせないことがわかった。ただ、今回の事業を通じて、国際交流協会が地域の諸団体からどう期待されているのかがよくわかったり、個の日本語教師のニーズもよく見えたりしたので、講座の結果を踏まえて改善を加えながら今後も同様の講座を実施していきたい。

(7) その他参考資料

浜松版地域日本語教師養成講座(チラシ).pdf
多文化共生理解のための連続公開講座チラシ.pdf
日本語教室(初中級)1期ほんとう？日本との違い(チラシ).pdf
日本語教室(初中級)2期発表会ちらし.pdf
日本語教室(初中級)2期ちらし(発表内容について).pdf
写真で語る私の歴史(表)_日.pdf
写真で語る私の歴史(裏)_日.pdf
写真で語る私の歴史プロフィール中面最終稿.pdf
写真で語る私の歴史プロフィール表紙・裏面.pdf

多文化共生理解のための連続公開講座アンケート集計.docx
日本語教室(初中級)2期発表会アンケート.docx
写真で語る私の歴史アンケート集計.docx